

名物鬼焼



解説
白石
克

仮名垣魯文作「日光道中膝栗毛」(名古屋市蓬左文庫所蔵)より

『日光道中膝栗毛』

鈍亭(仮名垣)魯文 戯作、歌川 国綱(二代目) 画

新庄堂刊、安政四年(一八五七)改印

尾崎久弥コレクション：蓬左文庫所蔵



北「やじ
さんちと
くちさみ
しくなっ
たからそこ
らでちよっ
びりやらかそふじ
やあねへか「そふよ
それもいゝが此よりいちりはんでかす
までいくのだからヲヲさいわひだこの
おにやきかかってくはふ北「なにうまくも
ねへ弥「いやそふてねへよ上戸にやああま
くなくってめうだぜライかみさん二めへくんな
とぜにをはらひ「さあきたやてめへ「まいくってみる

※一行綴じ込内にて読めず

名物
鬼焼

越か谷 一り
三十一

▲おめへのつらにいきうつしだ
弥「鬼かやらへこんなつらかあつ
てたまるもんか北「あらていたつ
てねへとかたつてかぢみをみねへ
おめへのつらのみかはりにならあ
といはれて弥二郎そばにこのやの
女ほうむすめがいるゆへやつきと
なつておこりだし「ばか
をぬかさずとくらいな
からあるきやがれ北「あはつ
そうをこらなけ

りやあ女
のそば
をは
なれ
ねへ
かも
あさ

仮名垣魯文作「日光道中膝栗毛」(名古屋市蓬左文庫所蔵)より